

# あの夏の絵

作・演出=福山啓子

こんなにも知らなかった  
ということを知った。



撮影：宿谷誠



## あらすじ

広島市にある私立海陵学園高等部。美術部員の恵は祖父母が入市被爆をしている被爆三世。顧問の岡田が持ち込んだ「被爆証言を聞いて絵に描く」取り組みに、迷いながらも参加することを決める。東京から引っ越してきた同じ美術部員の奈々は友達と遊ぶよりも絵を描くことが大好きで、漫研と兼部している篤人が気に入らない。岡田の提案で被爆証言は3人で聞くことになり、証言者・白井の話を聞いて心を突き動かされる3人だが、ある日奈々が学校に来なくなって…。

この作品は、広島市立基町高校の生徒たちが現在も実際に取り組んでいる活動を基に舞台化したものです。3人の高校生を中心に、被爆者と向き合い、支え合い、成長しながら絵を完成させていく姿が描かれており、世を超えて心が通じ合う温かな物語です。初演以来、「あらためて平和とは何かを考える機会になった」「自分たちが次の世代に語り継がなくてはいけないと思った」など、子どもたちの心にも響く作品になっています。2025年は戦後80年。“あの日の記憶”を忘れないために、この作品を通して、若者から大人まで、未来に向かって語り合う場を作って欲しいと願っています。

美術=石井強司 照明=河崎浩 音楽=堀沢広幸 音響効果=石井隆 衣裳=宮岡増枝  
方言指導=蒔田祐子 演出助手=清原達之 舞台監督=松橋秀幸 製作=広瀬公乃

## 感想

- 「記憶」をつなぐという人間だけが出来るのがいかに難しいことかということを感じました。高校生の創造活動に未来が見えてきたようです。(大人)
- 「知らなかったということを知る」とてもいい機会でした。今にまだ続いている原爆の傷を今日感じました。(大人)
- 特に印象に残っているところは皆が戦争の話を聞いて、「怖くないの?」と聞かれて「怖いけど、それ以上に描きたい。絵に残したい」と言ったところです。知らないことほど怖いものはないと思うので知らないことは自分で調べて、また詳しい人に聞いて自分の知識を深めていきたいと思いました。(高校生)

